

【教育目標】 総合目標 知性を磨き、心を見つめ、チャレンジする生徒



チャレンジ☆アイ

- ◎ 自主性、創造性のある生徒 (知育)
- ◎ 情操豊かな生徒 (徳育)
- ◎ 健康でたくましい生徒 (体育)

【世界のウチナーンチュから学ぶ】～アルベルト城間さん招き講演会～

10月24日(月)の5・6校時に、本校体育館においてラテンバンド「ディアマンテス」のボーカル、アルベルト城間さんをお招きして「講演会&ミニコンサート」を開催しました。この企画は、10月30日～11月3日に開催される「第7回世界のウチナーンチュ大会」に関連した沖縄県の「レッツ スタディ ウチナーネットワーク事業」を活用した授業でした。

アルベルトさんは県系ペルー3世で20歳の時に来日、1991年にディアマンテスを結成し、明るいラテンのリズムが大人気で県内外で活躍しています。当日の講演では、祖父母など移民1世が苦勞しながら支え合って少しずつ経済的に豊かになっていったことや、父から教育の大切さといつかこの国(ペルー)の役に立つ人間になるように教えられたこと、そして、祖父母は沖縄から持ってきた三線をとても大切にしている子供には触らせてくれなかったことなど、多くのエピソードを話してくれました。また、ペルーの歴史や人種(民族)、人々の暮らしや貧困などの社会問題についても教えてくれました。ミニコンサートでは、ペルー民謡の「コンドルはとんでいく」や、ディアマンテスの「アスタマーニャ」「魂をコンドルにのせて」「勝利の歌」「片手に三線を」などを、その歌ができた背景や歌に込めた思いや願いと共に披露してくれました。

当日は1年生は体育館、2・3年生は教室からリモートでの参加でした。また、「世界のウチナーンチュ大会」に関連して1学年の先生方が世界の民族衣装で登場して会場を沸かせました。



【生徒の感想】～アルベルトさんの講話や歌を聴いての発見・疑問・メッセージなど～

- ◎ 私は、この学習で「世界のウチナーンチュ」にふれて「ウチナーンチュ」への興味がさらに高まりました。そして、アルベルト城間さんの歌を聴いて、その歌に込められた思いを感じ、もっと城間さんの歌を聴いてみたいと思いました。様々な経験やきっかけで人を笑顔にできる歌を作っているのはとてもすごいと思いました。(1年4組 須藤汐里)
- ◎ アルベルト城間さんは、何かのきっかけで自分が輝ける場所を見つけられてとてもすごいなと思いました。沖縄で生まれていなくても沖縄の血が入っていることを誇りに思ってくれていてとてもうれしかったです。また、世界の色々な所で沖縄1世・2世・3世が自分の輝ける場所を見つける人ができてくれるのがとても楽しみになりました。(2年7組 島袋りの)
- ◎ 「自分はどこから来たんだろう」「どういう人なんだろう」と考えていた時期があったと聞いて、自分もそう思ったことがあり、最近少し考えたことがあったので身近に感じた。テロや貧しさのある国の話を聞いて、自分の知らない世界が良い面も悪い面もたくさんあることを知った。そういうことをたくさん知り向き合っていていこうと思った。また、小さなことも感謝しようと思った。言語が違うので分からない歌詞もあったけど、曲調などから気持ちが伝わり、前向きな歌がたくさんあって感動した。もっと聴きたいと思った。(3年8組 白せな)

【避難訓練（2回目）】～地震・津波を想定し、迅速・安全に避難！～

10月26日（水）の5校時に今年度2回目の避難訓練を実施しました。前は火災を想定した避難訓練で各学級から学級担任の指示で避難しましたが、今回は、地震・津波を想定し、移動教室での授業を含め教科担任の指示による避難訓練を実施しました。生徒のみなさんは、安全に素早くグラウンドに避難・集合することができました。講評では、今枝教頭先生から学校以外で災害が起こる可能性やグラウンドから更に高所への移動が必要な場合があることなどの話がありました。大事ことは、自分でよく考え正しく判断し行動することです。今回の避難訓練を通して、学校生活や家庭・社会生活の様々な場面で、指示待ちではなく自ら考え行動できる生徒になって欲しいです。

**【教職3年目研修】～前田義友教諭、酒井織恵教諭が道徳の研究授業～**

10月26日（水）に前田義友先生（3年7組）、10月27日（木）に酒井織恵先生（3年8組）の道徳の研究授業がありました。今回は二人とも3年担任で実施時期も同じということで、「二通の手紙」という教材を使って「法やきまりの意義」について考える授業を行いました。教材の概要は「定年後も動物園で働くベテランの元さんは動物園のきまりを破り、訳ありの幼い姉弟を入園時間を過ぎて、しかも幼い姉弟だけで入園させた。閉園時間を過ぎても師弟が見つからず職員総出の捜索でなんとか無事に見つかった。後日、師弟の母親からは『感謝の手紙』を、動物園からは『懲戒処分のお知らせ』を受け取り、元さんは動物園を辞めてしまう。』というものです。生徒たちは、「訳ありでかわいそうな師弟」と「動物園のきまり」の間で葛藤する元さんの姿や、元さんがこの年になって「初めて考えさせられたこと」などについて考え、話し合い、判断する学習を通して「法やきまりの意義」について考えを深めました。

**【教育実習②】～當銘さくら先生(岐阜女子大)、国語の研究授業～**

10月17日（月）～28日（金）の2週間、岐阜女子大学3年生の當銘さくら先生が教育実習を行いました。10月27日（木）の3校時に配置学級の2年9組で国語の研究授業がありました。教材は家族のふれあいが情緒豊かに表現された「盆土産」という文学作品で、語り手である「少年」の心情の変化を、父の盆土産の「えびフライ」に注目させて読み取り、家族のきずなや人間の優しさを感じ取る授業でした。教育実習生とは思えないくらい落ち着いた授業で電子黒板も効果的に活用していました。生徒たちは個人で考え、グループで話し合い、発表もしっかりとできていました。本物の先生になるのがとても楽しみです。

**【中堅教諭等資質向上研修】～高安真理教諭が道徳の研究授業～**

10月28日（金）の3校時に、高安真理先生の道徳の研究授業が2年9組でありました。今回は、「体験ナースをとおして」という教材を使い「生命の尊さ」について考えました。教材の概要は、「主人公の女子生徒が病院でのナース体験で赤ちゃんや妊婦と関わる中で命の大切さや親子のきずなの強さを感じ、帰宅後自分の出産時の様子を母親から聞いて母への感謝の気持ちと生きることの喜びや親の愛情について改めて知る。」というものです。生徒たちは、教材や母親でもある真理先生の話から命の大切さについて考え、「親からもらった命を大切にしたい人生にすることが親への恩返しになる」ことなどを学びました。

